

リモテラス公益施設整備 概要

施設の位置づけ

リモテラス構想 (第5次長久手市総合計画の主要プロジェクト)

長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として「リモテラス」を整備し
住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出する。



リモテラス構想の推進拠点が「リモテラス公益施設」

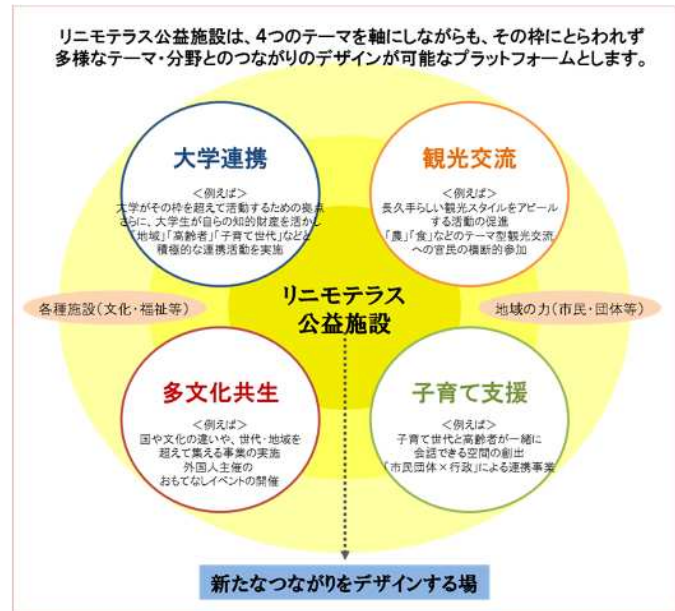
本市を特徴づける象徴的な要素として、「大学連携」「観光交流」
「多文化共生」「子育て支援」の4つのテーマが息づく公益施設を計画。



施設コンセプト

「新たなつながりをデザインする場」

長久手らしさや若者たちの関心事などから抽出
できるキーワードを核に、「学生」「社会人」
「主婦(夫)」「高齢者」「行政」などがそれ
ぞれの枠に収まることなく、世代を超えて新た
なつながりを生み出す場づくりを目指します。



施設コンセプトを推進するための3つのしくみ

しくみ1

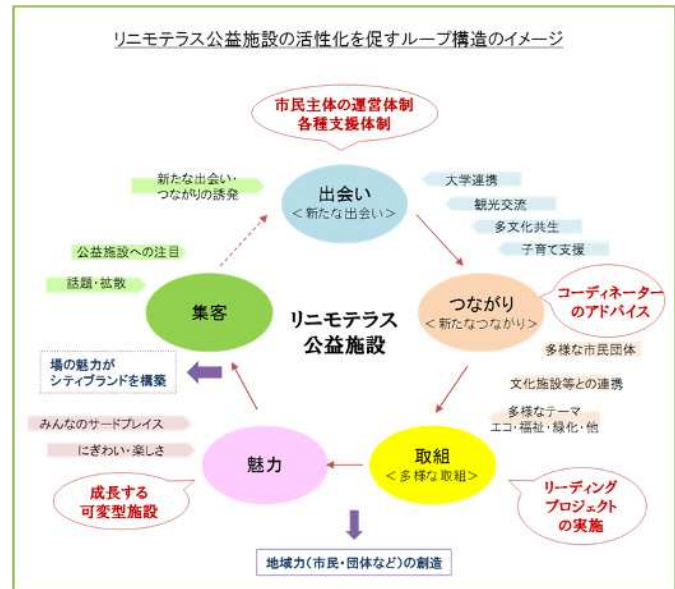
「出会い」「つながり」を
生み出すしくみ

しくみ2

つながり・連携による
「多彩な取組」を促すしくみ

しくみ3

場における「つながりの魅力」を
継続・成長させるしくみ



3つのしくみを推進役とした「場」の成長構造

施設運営について

リコモテラス公益施設の管理・運営については、「市民主体」の考え方を基本に、多くの全国事例などを参考にしながら、多様な主体とのつながり・連携を可能にする、施設コンセプトに最もふさわしい手法を模索し、公民連携を推進させるため指定管理者制度の導入を図りました。

施設概要

リコモテラス公益施設

開館：令和3年6月1日
建築面積：870.08㎡
建築面積：399.14㎡
延床面積：383.40㎡
構造：木造平屋建て
建物高さ：8,113m

当該施設の設計にあたっては、施設コンセプトにも掲げられている4テーマに関連する団体の代表者で構成されたリコモテラス運営協議会とともに主体的な検討を行いました。

【施設の設計】

- ①使い勝手の良さを考え、「木造・平屋」とする
- ②誰でも気軽に立ち寄れるよう、「オープンな空間とする」



開館後の事業

年間来館者数： 28,585人（令和4年12月末時点）
イベント件数： 98件（指定管理事業イベント、令和4年12月末時点）

令和3年6月1日に開館し、コロナ禍における感染対策等にも配慮しつつ、小規模ながら施設コンセプトの4テーマに即した情報発信機能やイベントや市内に潜在する活用者（プレイヤー）のノウハウを活かしたイベントやマルシェ等、幅広い内容の事業を展開しています。そのプロセスの中で面識の無かったプレイヤー同士が混じり合ったり、イベントへの参加を通じて本施設を活用する新規プレイヤーが生まれるなど、新たなつながりが生まれる場として活用されています。また、令和3年度の後半に当該施設にコーディネーターが誕生し、施設利用者のニーズを吸い上げ、「市民のやりたい」の実現に向けたコーディネート機能が強化されました。さらに、令和4年度からは隣接するリニューアルされた長久手中央2号公園と一体的な活用法による賑わい空間を創出する取組やリコモテラスにおける能動的市民活動を促進させる取組も生まれだしています。

令和4年11月のジブリパーク開業を記念し、11月4日（日）にいもほりフェアが開催され、芋掘り体験や、自衛隊員との記念撮影等様々なプログラムを実施しました。

今後の展開

開館してから約1年半が経過し、着実に施設利用者数も増加しています。また、上記のとおり長久手中央2号公園と一体的な活用法が増えてきているため施設利用ニーズも増加傾向にあります。今後は、増えてきた施設利用者の方々がより使いやすくなるような管理・運営の整備を行うとともにコロナ禍における感染症対策を考慮しながらも、新たなつながりづくり及び市民のチャレンジの場として事業を展開していきます。